

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	66.4 (1.06)		57.5 (1.11)	
			65 (1.00)	
R3 正答率の全国比		1.00		0.95

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語科では、無回答率が低く、あきらめない傾向が示されたが、国語の学習自体を嫌う率が高く、言葉への関心が低いことが判明した。
- 算数科では、計算はできるが、立式したり、求め方を書き表したりする必要がある文章問題の正答率が低く、情報を処理することを苦手としていることが分かった。
- 英語を苦手としている児童が6割強だった。
- 自己肯定感が低く、自己主張する力が弱い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 言語事項を大切にし、言葉への関心を持たせるため、自分専用の辞書を用意させ、日常的に活用させていく。
- ・ 他教科や日常生活の中で、算数科の力を活用する場面を設ける。
- ・ 自分の考えを発表する機会を多く設け、自己肯定感の高揚につなげる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 「読書タイム」を新しく設け、全校で集中して言葉に触れるようにする。
- ・ 既存の「パワーアップタイム」等を活用し、文章問題に取り組ませる。
- ・ 健康観察時の返事を英語で返したり、職員室への入退室時の挨拶を英語で行ったりする活動を取り入れる。